1. フォトランゲージ

・写真を選んだ理由　・写真から気づいたこと　・私の説明

日本の家と造りが全く違くて、ハッドという伝統的な家て聞いて、中など家の詳しい造り、外の草が枯れていて土も乾きとても乾燥しているので気候や環境のことにも興味を持ったので選びま

村には、木を組み立て草で屋根を作った、高さの低い家があり、風通しが良さそう。都市のような所には道路がしっかり舗装されていて街灯のようなものもある。道路は比較的広く真っすぐである。村のような所では車ではなく牛が荷馬車のようなものを引っぱっている。都市の方は車が使われていてガソリンスタンドもある。ガソリンスタンド同士の距離が近く日本と同じメーカーのガソリンスタンドがあった。また、大きなショッピングモールのような建物もあり、しっかりしていて広くとてもきれい。

いくつかの写真を見ていると、都市のような所と村のような所では、交通機関や環境、建て物の造りなどに大きな違いがあることが分かる。

2. 資料Ⅰより

・資料を読んで気づいたこと　・自分が感じたことや考えたこと

首都ハラレにはビルやショッピングモールなどがあり、信号や街路灯もある。家も日本の家とあまり変わらず電灯があり、台所には流しや電気調理器もある。しかし首都ハラレから離れた村では、ビルや舗装された道路もなく、家には水道や電気もない。そのため、水は井戸までくみに行かなければならないし、木を燃やして煮炊きしている。

写真や資料を見て、都市と村での生活環境がこんなにも違うのかということにとても驚きました。水道や電気のない村では、水くみや荷物を運んだり（写真から）と小さな子供も生活のために働いているんじゃないかと思いました。

なぜこんなに生活環境が違ってしまったのかということや、その違いによって都市・村、それぞれに住む人達にどのような影響をあたえているのかということについて疑問に思い、詳しく知りたいと思いました。

《発表用シート》

3. 写真・資料Ⅰ・Ⅱをよんで（気づいたこと・知ったこと　感じ考えたこと）

ジンバブエの人々は、10人に1人以上の子供が5歳の誕生日を迎えることができずにいます。エイズも4人に1人がかかっているという現状を知りました。しかし、インターネットを使える環境にある人や文字を理解できる人の割合は日本と同じくらいで、発展途上国とは思えないような高層ビルやショッピングモールも都市にはあり、同じ国でありながらこのような環境の違いがあることに驚きました。そして過去に人種差別政策がとられていたことを知り、それが今も残っていて、村に住む人達の人権が軽んじられているのではないかと思いました。都市に住む人と村に住む人の住環境を平等にするにはどうしたら良いのでしょうか。そして村に住む人々に充分な医療を受けるために、現在行われていること、私達に出来ることは何かないのでしょうか。このような貧富の差が激しい国はジンバブエだけではありません。そこで今、私達が出来ることは何なのだろうか、というのが課題になってくると思います。でも違いばかりでなく日本と同じ所（子供達が笑顔）も見つけていけると良いと思いました。

4. 私たちの考える「平和な世界」とは　！

「平和な世界」というと戦争などがなく、食べ物や資源なども皆平等にあり…などたくさんあると思いますが全部含めて世界中の人々が笑顔でいられることが一番"平和"なのではないかと思う。資源などは皆平等になければならないはずです。しかし国によって大きな差があります。日本も資源などを使いすぎている国の1つです。自分達の生活のためにやっている事が地球・世界の人々にとってどのような影響を与えているのか、もう一度皆がよく考えなければいけないと思いました。

5. 他グループの発表から

＜ジンバブエの生活について＞	＜ジンバブエの学校について＞
失業率⇒60～70% 高い 都市の人々⇒仕事をし、ケータイや車などを買っています。 村の人々⇒失業率が高いためほとんど職につけない。	小学校⇒7年間 週休2日制 体育館はない [illegible] 1コマ 30分 弁当持ち エイズ教育が科目にある。 小学校は3種類ある。 プライベートスクール（私立）⇒授業料などが高い。
工業は、ジンバブエ経済の中で重要なものとなっている。 課題⇒電気開発 外貨不足	Aスクール⇒もともと白人専用の学校で整備が良く プールがある所もある。
主な鉱物⇒アスベスト・クロム アンモニア	Bスクール の3種類。 学校では進級テストがあり、合格しないと留年になる。
道路にはたくさんのゴミが捨ててある所がある。 ⇓ きれいにしようという運動が起こることもある。 ⇓ 住民のゴミ拾い	中学校⇒4年間 高校⇒2年間 1日7コマで1コマ35分 中学卒業後、高校へ行く生徒の割合は少ない。 授業間は休みの時間がないので移動教室の場合遅刻する。 先生がムチをふることはある。
	＝レベルの高い学校はなぜ寮制なのか＝

6. ＪＩＣＡ 深山さん 松本先生からの話から

- 小学校は義務教育なのでほとんどの子供達がいける。（90%以上の子供が小学校へ行けている）
- 小学校では制服を着ることになっているので都市の子供も村の子供も制服を着ている。
- 小学校卒業後 ⇒
  - 中学校へ入学する人（半分以上）
  - 家庭のために働く人
  - （お金がなく学校へ行けない人）

  がいる。

ゴミについて⇒小学校などでは掃除をする人をやとっているので子供達は割と平気でゴミをすててしまう。

村に住む人の家の中⇒電気は一切通っていない。家具が少しある所もあるが何もなく木で火をおこしたりしている所もある。（←バット）

都市に住む人の家の中⇒ポット、電子レンジ、オーブントースターなどの電気調理器がたくさんある。しかしガスはないに等しい。

停電（毎日）

発展途上国のほとんどの国では都市と村の貧富の差が激しい。

私達にできること⇒その国のことを知ることがまず一番初めの協力への第1歩。

日本と違う所だけでなく、「子供達が笑顔」など（写真から）日本と同じ良い点を知ることも良い。

7.「平和な世界」とは

授業の発表などからジンバブエのような発展途上国とは場所（都市・村）によって大きな貧富の差があります。貧困のある所では必要なだけの資源もなく衛生状態もとても悪いので命を落とす人がとても多いです。世界中にある資源・食物などは世界中の人々に平等に分け与えられるぐらいあるはずなのです。貧困や貧富の差があるのは日本を含め先進国の国々が必要以上の資源などを使いそのほとんどをムダにしているからです。しかしこのような国でも写真を見ると笑顔の人達がたくさんいることに気がつきました。生活が貧しくても、友達や家族といるだけで楽しくすごせたと思っているんじゃないかと思いました。戦争・差別・貧困がないなど「平和」という言葉から出てくるものはたくさんありますが、一番大切なことは皆が笑顔でいられることだと思いました。

8.「平和な世界」の実現のために

○ 今の自分が取り組むこと

資源・エネルギーをムダ使いしない⇒省エネ、エコ、3Rs（reducing→減らすこと、reuseing→再利用すること、recycleing→リサイクル）

ユニセフ募金などの活動にも積極的に取り組む⇒少しでも世界の人々が幸せになれるように。

その国がどう状況におかれているのか、生活状態など、その国のことをよく知ることが協力への第1歩！！⇒私達は今の生活が当たり前になっているので貧困がある国のことを知ってほしい。

○ 将来の自分が取り組みたいこと

上に書いたことは最低限ずっと続けていきたいと思います。私1人だけでも大人になるまで上に書いたことを続けるのと続けないのでは大きな違いがあると思うし、少しでも地球・世界の人々を救うために必要なことだと思います。たくさんの人々が取り組めばより良い事だと思います。将来であれば、自らが募金活動やボランティアなどを行って特に貧困のある国の人々の役に立てるような活動をしていけたら良いです。そして将来までにたくさんの国の様々な状況を知ると思うので、それを1人でも多くの人に知ってもらうために会のようなものを開けたら良いと思うし、TV放送などで世界の現状をたくさんの人に知ってもらうとより良いと思います。（国に）